



大谷第二地区社会福祉協議会



シリーズ

あなたのまちの校(地)区社協

みんなのネットワーク

北九州市社協だより

2016
1月15日
No. 98

みんなが安心して暮らせるまなびのまちづくり

子どもたちの“チカラ”を地域の力に

戸畑区 大谷第二地区社会福祉協議会

【地区社協の概要】

設立：昭和43年2月
人口：約4,500人
高齢化率：30.7%
福祉協力員：21人

会長：佐藤 映子
世帯数：約2,200世帯
活動拠点：大谷市民センター
民生委員・児童委員：11人

大谷第二地区は、八幡東区と隣接し、階段や坂道が多い地域です。子どもの数は年々減少し、高齢者のひとり暮らし等、支援が必要な見守り対象世帯が増加しています。

地区社協では、『みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり』をスローガンに、地域の子もたちを育む地域福祉活動に取り組んでいます。

■ 小学校と連携した福祉教育

地区社協では、大谷小学校と福祉協力員と民生委員・児童委員が連携して、日頃、高齢者と接する機会が少ない子どもたちに、「年をとるとはどういうことか」、「認知症はどのような病気なのか」、「地域で様子がおかしい高齢者を見つけた時の対応」などを学んでもらう、福祉体験教室を小学校6年生を対象に開催しています。

この教室では、小学生向けの認知症サポーター養成講座を受講し、講義のほか寸劇やロールプレイを通じ、認知症について体験的に学んでいます。小学校との協働により、この取り組みが授業の一環として位置づけられているため、毎年、6年生の児童全員が必ず受講し、小学生の認知症サポーターがたくさん誕生しています。

受講後、子どもたちは目を輝かせながら、修了証とオレンジリングをもらいます。認知症について学ぶことで、自分にもできないことがないかなと考えるきっかけとなり、他者を思いやる心が育てられています。



福祉体験教室でロールプレイ

■ 福祉教育が子どもたちの自発的な活動に

福祉体験教室を通じて、子どもたちが高齢者と交流したいと、地域の高齢者福祉施設に進んで遊びにいくことが増えてきました。

また、子どもたちが地域福祉活動者の一人として、地域での見守り活動をしています。

子どもたちには、「あれ、あのお年寄り、様子がおかしいな…」と思ったら、一人で対応しないで、近くのおとなに知らせたり、勇気を出して声をかけてみたりなど、手助けをしましょうと教えているそうです。



佐藤会長は、「これからも小学校の協力をいただきながら、福祉協力員と民生委員・児童委員と一緒に福祉体験教室をずっと続けて、地域の宝である子どもたちを育てていきたいと思えます。」と意欲的にお話しされます。

福祉体験教室での取り組みによって、子どもたちやその保護者とのつながりができ、地域で子どもたちを健やかに育てるための情報共有が少しずつできるようになりました。福祉協力員と民生委員・児童委員が連携し、家庭訪問による声かけなどの基本的な活動の一つひとつ積み重ねています。